

## 地方民鉄紀行

## 京福電鉄 嵐電



京都有数の観光名所を沿線に多数抱える京福電気鉄道の路面電車「嵐電」。その多くは無人駅だが、地域住民とともに緑化活動がすすめられている。

来

年、開業100周年を迎える嵐電では、2006年から「ブラッシュアップ計画」を実施。路線名「嵐電」への統一、行き先看板の刷新や分かりやすい駅名への変更などに加え、2007年からは、NPO法人京都・雨水の会や沿線住民と協働して「花と緑の路線に」をテーマにした緑化活動にも取り組んでいる。

## 無人駅を彩る寄せ植え

まずは最近、植え替えを行ったばかりだという等持院駅、御室仁和寺駅の見学に向かう。沿線を巡るのに便利な「嵐電一日フリーきっぷ」を買って四条大宮駅から乗車。

帷子ノ辻駅で北野線に乗り換えて約10分。等持院駅に降り立つと、日当たりの良い一角に据えられた数個のプランターが目に入った。白や薄紫の小さな花と緑の寄せ植えは、お花屋さんの花のような華やかなものではないけれど、ひっそりとした無人駅の雰囲気に良く合っている。

続いて、「近畿の駅百選」にも認定された御室仁和寺駅に向かう。以前は「御室」という駅名だったが、仁和寺が目の前にあり、参拝客の利用が多いことから、よりわかりやすく「御室仁和寺」と改名された。

こちらの駅には寄せ植えに加え、「藤袴」の鉢植えがずらりと並べられている。秋の七草にも挙げられている藤袴の野生種は、環境変化によって激減。絶滅危惧種となり、京都府では保護プロジェクトを展開している。その

活動の一環として、市内のあちこちに藤袴の鉢植えが飾られているのだ。藤色がかった白く小さな花を無数に咲かせた藤袴は、虫にとつてはよほど魅力的な花なのか、鉢植えの周囲にはたくさん蝶や蜂が飛び回っていた。

仁和寺や等持院の他に、北野線沿線には石庭で有名な龍安寺や妙心寺など、観光名所が近在している。駅と駅との間隔が狭いこともあり、こうした名所を徒歩で巡っている観光客の姿を沿線のいたるところに見かける。歩き疲れたら近くの駅から電車移動に切り替えることができるのが、観光にはとても便利だ。

## 地域に支えられた緑化活動

こうしたプランターに彩られた駅は等持院駅、御室仁和寺駅に限らず、嵐電沿線の随所に見ることができる。しかし21ある嵐電の駅は、そのほとんどが無人駅。植物の維持管理に必要な水道の設備がなく、当初、緑化活動に取り組むには困難な状況だった。

こうした状況を変えたのが、雨水の有効活用に取り組んでいるNPO法人京都・雨水の会だ。嵐電では、この会の協力の下、雨水を貯める雨水タンクを各駅に設置。気軽に水やりができる環境を整えることで、沿線住民を中心に、近在の小中学校や商店街の協力を得て、活動は支えられている。

どの駅のプランターにもきちんと人の手が加えられていて、見ていて気持ちが良い。嵐電の緑化活動が地域に根付いたものであるこ

## 京福電気鉄道

## 【けいふくでんきてつどう】

四条大宮から嵐山を結ぶ嵐山本線(7.2km)と、その途中、帷子ノ辻から枝分かれして北野白梅町までの結ぶ北野線(3.8km)の2路線を擁する。2010年には開業100周年を迎える京都唯一の路面電車。



右/等持院駅の寄せ植え  
左/藤袴の鉢植えには虫たちが集まっている



## 嵐電 天神川駅

こんなラッピング電車も



まだ新しい嵐電天神川駅



雨水タンクは駅によって異なる

とが感じられた。

### 他路線とのアクセスで利便性を向上

さて、今度は帷子ノ辻駅から嵐山本線に乗ってみる。

人気の観光エリアである嵐山と京都市内とを結ぶ嵐山本線にも北野線と同様、広隆寺や車折神社といった観光名所がいくつも点在している。嵐電は沿線住民の生活の足であると同時に、その全域に京都有数の観光名所を多数抱える観光路線でもあるのだ。

2008年には、京都市営地下鉄東西線の太秦天神川駅との乗換駅として、嵐電天神川駅を新設し、地下鉄とのアクセスを実現。通勤・通学の利用者はもちろん、観光客の利便性も格段に向上した。

さらに東西線には琵琶湖方面に向かう京阪京津線が乗り入れているため、嵐電沿線から琵琶湖方面へかけての観光も可能に。こうした他路線とのアクセスを生かした観光計画をサポートする「京都市営地下鉄・嵐電・daソチケット」(嵐電と市営地下鉄全線が乗り放題)や「京都嵐山・びわ湖大津1dayソチケット」(嵐電・市営地下鉄全線・京阪電車大津線全線が乗り放題)なども企画発売されている。

### 嵐山は一大観光エリア

四条大宮駅から約20分、帷子ノ辻駅からなら7分程度で嵐山駅に着く。市バスや観光バス

スで道路が大渋滞を起こす春や秋の観光トップシーズンでも、電車には影響しない。

2002年に全面改装された嵐山駅には、飲食店や土産物店が入った「はんなりほっこりスクエア」が併設されており、改札を出る前から観光地の賑わいに包まれる。駅を出た観光客の多くは、駅前にある嵐山観光の目玉スポットのひとつ、天龍寺に向かう。

夢窓国師による庭園で有名な天龍寺は、世界文化遺産ということもあってか、海外からの観光客も多い。嵐山を借景とした池泉回遊式庭園を眺めていると、英語や韓国語、フランス語など色々な国の言葉が耳に入ってくる。外国人観光客がこの庭園に抱く感想はどんなものだったのだろう。

天龍寺のすぐそばには縁結びのご利益で有名な野宮神社。もう少し足を伸ばせば保津川沿いを走るトロッコ列車の駅。さらに先まで足を延ばせば嵯峨野巡りということになるが、今回はここまで。レンタサイクルで嵯峨野巡りに向かう人々を見送りつつ駅へ戻る。

一日、沿線を巡り歩き、疲れた足を励まして最後に向かうのは嵐山駅構内、ホームの端にある「嵐山温泉『駅の足湯』」だ。駅員さんに声をかけ、利用料150円と引き換えにタオルをもらう。

ぼんやりと足湯に浸かりながら、出入りする電車を眺める。足先からじんわり伝わる温かさが心地良い。「もう一台後、もう一台後」と、帰りの電車はすっかり遅くなってしまった。

## 天龍寺の 庭園



嵐山駅ホームの端にある足湯



嵐山を借景にした天龍寺の庭園

## 広隆寺



広隆寺の目の前を通過する(2009年10月14日、江ノ島電鉄と姉妹提携をした嵐電。写真の電車は姉妹提携記念の「江ノ電号」)